■赴任先の県・市名■　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　学部・コース名□●●□●●

１．小学校教諭を目指した動機

□□小学校の時の担任の先生に憧れていました。先生は厳しい部分が多かったけれど、クラスの一人ひと□りのことを考えてくれるような方でした。そんな先生に出会ったことがきっかけで小学校教諭を目指そ□うと思いました。

□□大学の講義を受けたり、様々なことを経験したりして大学では視野が広がりました。その中で自分の□したいことをしっかりと考え、先生になりたいという気持ちが強かったので採用試験を受けました。

２．採用試験への取り組み開始時期

□□本格的に勉強を始めたのは、３年生の２月ごろだったと思います。わたしは、４年生になったら語学□留学をしたいと考えていたので周りのみんなが勉強し始めていた時期でも焦る気持ちを持てずにいまし□た。しかし、自分が本当にしたいことや働きたいと思う場所を見つけてからは採用試験に向けて前向き□に取り組めたような気がします。

□□また、私の場合は実習が６月スタートで採用試験は７月の上旬でした。実習が終わって３日後には試□験だったので、それまでにできることはしておこうと思い対策講座や模試は積極的に受けていました。

３．採用試験一次試験への勉強法

□■教職教養対策

□□□●●市の教職教養は一般教養が７割、教職教養が３割だったので、パスラインの一般教養２年分を□□主に解いていました。教職教養は覚えていくとある程度は解けるようになったので、覚えても覚えて□□もきりのない一般教養に苦戦していました。わたしは読むだけでは覚えきれなかったので、ノートに□□間違ったところを全部書くようにしていました。

□■専門教科対策

□□□ひたすら学習指導要領を読み込んでいました。２月や３月の少し気持ちに余裕があったころは丸写□□しを一度だけしたこともあります。穴埋めになっているテキストは苦手だったので、穴埋めになって□□いる部分を指導要領に書き込み覚えていました。

□■個人面接対策

□□□面接はゼミの先生にみてもらっていました。なかなか面接練習をする気になれませんでしたが、周□□りの友達や先生方にみてもらい自分の話し方や表情の指摘などをいただきました。どんな質問がきた□□としても、自分が先生になったときにしたいと思うことや、自分の教育観の核となるようなものはぶ□□れないようにしておくといいかなと思います。

□■適性検査

□□□適性検査の対策はしていませんでした。

４．採用試験二次試験への対策法

□■論作文

□□□対策講座などで論文を書くときの形式を教えてもらいました。形式が分かるとそれにはめこんで、□□自分の考えを書くことができるようになりました。

□■集団面接

□□□対策講座の中でも何回か面接練習をする機会がありました。練習をしながら思ったことは、自分が□□持っている教育観をしっかりと相手に伝えられるかどうかというのは大事だということです。それを□□面接の中で自分の意見としていえるだけで言いたいことは言えたという安心感のようなものがありま□□した。もし周りの受験生が似たようなことを言ったとしてもそれに同意することも大切だと思います。

□■模擬授業

□□□●●市の場合、模擬授業の指導案作成時間が80分で細案を仕上げなければいけなかったので、正□□直なところ練習では指導案を完成させることはありませんでした。どの教科が出されるのかもわから□□ず対策のしようがなかったので、先生からは指導案の書き方を改めて教えてもらいました。基本的な□□指導案の書き方をわかって頭に入れておくだけで流れもスムーズになるし、教育実習の時に受けた指□□導などを思い出しながら試験中は書いていました。

□■体育実技（跳び箱・ボール）

□□□バスケットボールは得意ではなかったので友達に教えてもらいながらフォームの確認を何度もして□□いました。跳び箱もどの技が出されるかわからなかったので、いろいろな技を練習していました。

５．後輩たちへのアドバイス

□□採用試験を受けるときはしっかりと自分の気持ちが固まっていないといけないなぁと勉強しながら思□っていました。やっぱり、できる子は周りにたくさんいるし自分が勉強してできるようになるのだろう□かと何度も不安になることもありました。その中でも一緒に勉強を頑張ってくれる子や先生方の指導も□あり頑張ることができたように思います。

□□京都市を受験する子は一人もいなかったけれど、誰もいないことが逆にプレッシャーにならず自己流□の勉強法で、自分のペースで勉強できた気がします。自分にできそうなことをコツコツと重ねていくこ□とが大切だと思います。頑張ってください！